

改題

# 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 3月号 (NO59)

2015年3月10日 (火) 発行 (毎月10日)

## 【農暦】いよいよ始動か!

〇やり残し作業が進まないうちに6日は啓蟄である。土の中から虫が動き出すころになってしまった。寒さで縮んだ身体は余り作業してくれない。冬の季節が田畑をリセットしてくれるので安心感もある。それでも、延び延びになっているビニールハウスの張替も仲間

に助けられ終えることが出来た。草に負けてしまうならとご近所さんが届けてくれた蕨の根を植え込むなどしている。5日には、いつも頂いているエンドウ豆の苗を植込みした。いよいよ虫と草と向き合わなくてはならないと思うと気力が出てくる。春先の気力は実力を感あわすので注意を要する。虫も草も少ない今は、日和に恵まれれば農作業が一番楽しい時期である。ただ播種や作付けは程々を心掛けねばと思う。近年は楽しみが苦しみになっているからである。ホトケの座やオイヌノフグリの花がちらほら見られる。毎年同じ様なことを考えている様な気がするが、愛でることも大事にしたいが、除草の事も考えなければならぬ。



<柏の農業公園の紅梅>梅林という程木は多くはないが、寒風の中2人3人と散策?..。2日撮影

〇今日8日は柏にいる。曇天で時より冷雨である。春の気配が遠退いている様な天気で肌寒い。近くのショッピングセンターへの途中に何区画かの菜園がある。草を一本ずつピンセットで抜いたのではないかと思うわれる程に、草が全くない畑がある。そのうちの2区画で農作業をしていた。キャベツ、白菜など青物で春先の畑には見えない程にみどりが豊かである。ネギ一本、ニラー一本が丁寧に管理されている事が見て取れる。頑張っていますねと挨拶して通るのだが“上農は草を見ずして草を取る”の諺を地で行っている様に思えた。隣接の一面には枯れ草に覆われたまま所がある。盆栽の手入れをするに似た様な菜園は行き過ぎと思うのだが、2つを同時に見ると菜園を始めた頃と今を示された様にも感じた。今、水上勉の「土を喰う日々」を読んでいるが、ズボラな私の中では死語になってしまった“精進”と云う言葉が出て来る。農作業は精進するとは言わないが、精進するのは我が身には重い。

〇寒風と冷雨に晒されているが梅は満開である。いよいよ春到来である。冬枯れの畑を耕起しジャガイモを植えたい。トマトなどの播種もしたいと思っている。いよいよ始動か!

### 【楽農】ハウスのビニールの張替を行った！

<畑A>；蕨の植込み、エンドウ豆の苗の植込みなど

<ハウス>；ビニールの張替、周辺の刈り込み

<畑B>； 作業なし

\*残りの金時、小豆の出荷（僅かだが）。

\*家の周りの整理と刈り込みなど。



<ハウスの張替>仲間に助けられ、後半はピッコロファームのメンバーの加勢もあり完了した。写真はマイカ線張り作業。25日撮影

### 【楽市】イベント交流・直売など

○その他；柏市リボン館のバス見学会（17日）、ピッコロファームの例会（25、26日）、エコピア柏例会（21日）OB会（9日）に参加など。

\*告別式と重なったイベントなどを欠席。

### 【つぶやき=Tweet】都会の食の貯蓄率は3日ぐらい？

○古い山の仲間のKさん（友人にKさんが多い）より“土楽だより”を読んでとメールを頂いた。食と農と格差と今一番の関心事が述べられているので、長い引用になるが紹介をする。

▲「<略>食の本をご紹介します。<略>カナダ人の food writer の著作、「シティ・ファーマー(food and the city by Jennifer Cockrall-King)：世界の都市で始まる食料自給革命、という本です。昨年年末出版で新しい内容です。我々はスーパーとコンビニで食を得ていますが、これは資本にコントロールされた食の世界。都会の食の貯蓄率は3日ぐらいしかないそうです。資本側も経費を無駄にしないように最小限で回転している。昔、トヨタのカンバン方式のすばらしさを教えられ、その know-how で仕事をしたことを思い出しましたが、一介の年金者になって、それは資本側の発想で、今日隆盛を極める大手スーパー、コンビニもこの手で経営しているんでしょう。傘下、いわゆる下請はたまらないんでしょうね。

▲今の地球の土地、水だけでは72億人を生かせないといことで、化学薬品と遺伝子工学が大いに寄与（これでわれわれはいろいろなリスクに侵されている）しているそうです。それでも我々は毎日その恩恵で生きている。複雑である。安倍総理が農業改革をしたと演説しているが、この本を読むほどにいかにスケールの小さい、皮相的で根本問題を避けたものだと思っている次第です。日本の自給率はカロリーベースで40%ほどらしいですが、



<ごみの山>浦安市クリーセントラのごみピット。約6000m<sup>3</sup>までためておける。都市ガスで熱せられた砂で焼却される。17日撮影

なぜ1%でも多くなるような施策（\*脚注）とらないのか不思議に思っているが、<略>  
▲東京新聞に「途上国に再生せっけんを」と題した記事がのっていた。ウガンダ（世界では不衛生による下痢などで死者は年間200万人も）では体を清潔にするせっけんが1日の稼ぎの半分を充てても手に入らない、一方、アメリカでは1日に260万個の石鹸が捨てられている。（略）日本も同じような贅沢というか無駄をしているんでしょうね。食も同じ。コンビニでは時間が来ると食べ物は破棄される。その量は凄いらしい。そう言いながら、ワンコインでむすびが2個も買える便利さ。言うは天に唾するときでしょう。石鹸の話と同様。世界には食べ物がなくて、餓死する人が多いという。<略>

▲先日、北海道の羅臼で豪雪、吹雪で交通が途絶え、そのスーパーの棚は空っぽ、羅臼の住人は困ったとニュースが流れた。この本にもあるが、世界的な net-work で運営された食の世界はちょっとしたことで極めてヤバイ事態になることを指摘している。それを知った都会の人がベランダなどに野菜を植えたりして、食の自衛化を図っていると書いてあります。大いに自己矛盾を持ちながら読んでいます。<略>」とあった。自給率や農政について私なりの見解をメール回答させて頂いた。薦められた本はこれから読む事にしたいと思う。

○ピッコロファームの懇親会で、私のチョットした言葉の使い方から方言の話になった。私の田舎では“だんべ祭り”があると話したら、北海道出身の2人がビックリされた。北海道では、“だんべ”とは女性のアソコを指すと云う。笠間で“コワイ”と云う言葉を良く聞く。そんなに何が“怖い”のか不思議に思った。疲れることの意味だと知れば、なる程となる。里芋の事をバカ芋と言う。バカ芋では可哀そうである。笠間の人にはなれていないのか、今でも私はコワイもバカ芋も使えない。お国言葉自慢でも“だんべ”をススキノで連発したらエロ親父にさせられるのだろう。方言には人間味があって面白い。“だんべ”では盛り上がったが、大阪のMさんとネットで会話や農法のあれこれに、緑肥のこと作付けのことなど長時間の楽しい懇親になった。翌朝食を一緒に取り散会した。

\* ; 低い自給率を理由に予算取りし、米偏重の補助金漬けでは自給率アップは出来ないと私は思う。

### 【後記】

いよいよ春の到来 農作業が始動か。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<約596kgのごみの袋>  
浦安市の1人1日のゴミの量。減量と再資源化をビーンズ（静脈と女神の意）計画として推進。17日日撮影

発行者 ; K o g u r e農場・小暮虎雄

住所 ; 笠間市本戸4201-10

携帯電話 ; 090-9333-4135

メール ; [torao-k@nifty.ne.jp](mailto:torao-k@nifty.ne.jp)

HP ; <http://homepage3.nifty.com/toragigi/>